

芽かきがガーベラの生育に 及ぼす影響

1 はじめに

ガーベラは南アフリカ原産の多年草で、非常に多種多様な花形、花色を持つことが特徴的な花です(写真1)。国内の切り花生産において、キク、バラ、カーネーションについて出荷本数が多く、全国的にも主要な切り花のひとつです。中でも静岡県は、全国の



出荷本数の41%を出荷しており(※1)、ガーベラは本県における主要な花きとなっています。

当所ではこれまでに、温室内の環境(二酸化炭素、光、温湿度など)を制御することで、生産性を向上させる技術の開発や、温室内の環境が変化した場合に植物体内で起こる現象などについて研究を行ってきました。



写真1 ガーベラの花

2 シンクソースバランスとは

近年、野菜や花き等の様々な品目で「シンクソースバランス」という言葉が注目されています。「シンク」とは光合成を行った結果、生産された糖などを貯蔵する器官(花、実など)のことで、「ソース」とは光合成を行い糖などを生産する器官(葉など)のことを指します。「シンクソースバランス」はこの両者のバランスを意味します。シンクソースバランスが適切でないと、収穫物である花や実の数が減少したり、品質が低下することがあります。そのため、トマトやイチゴ等では摘葉や摘果といった管理によって適切なシンクソースバランスを保つ技術が確立されています。

3 芽かきとは

ガーベラにおいても、シンクソースバランスを管理するために、葉かき(摘葉)が以前から行われていまし



写真2 ガーベラの芽(左)と株(右)

つつの切り花のポリウムが減少してしまうことがあります。このため、芽を手でもぎ取って強制的に除去し、1株あたりの芽数を制限することを芽かきと呼び、適切なシンクソースバランスに調整する技術として利用されています(写真3)。

しかしながら、芽かきの効果については、詳細が不明であったため、今回試験を行い、その効果を明らかにしました。

4 芽かきの試験結果

今回の試験では、特に芽数の多い「サンデイ」という品種の2年株を用



写真3 芽かきの様子

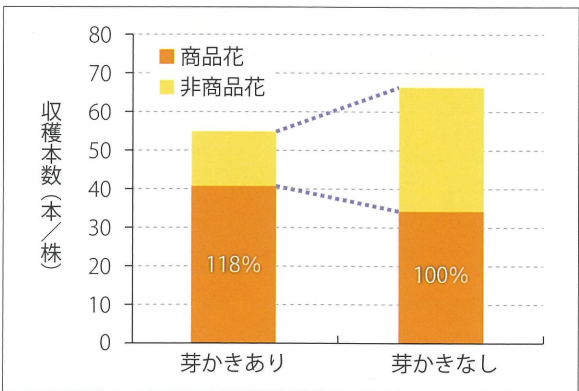


図1 商品花収穫本数の増加

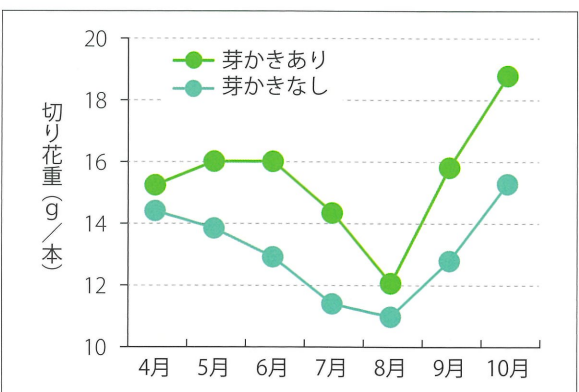


図2 切り花重の増加

要因であると考えられました。なお、切り花のポリウムの増加は、芽かきをしてすぐに現れます。その他にも、発生しても開花せずに枯死してしまう花芽の減少、1つ1つの葉の面積の増加、生育速度の増加等の様々な生育にとって良い影響があることが明らかとなりました。

5 芽かきの注意点

試験により、芽かきにはガーベラ栽培の生産性を向上させる様々な効果があることが明らかとなりましたが、今回の結果は、あくまで株あたり芽数の多い「サンデイ」で月1回5芽と

たが、それに加えて芽かきという作業を行う生産者もいます。

ガーベラの1株は複数の芽(イチゴ)で言うクラウンで構成されており(写真2)、芽が増えやすい一部の品種では株あたりの芽数が多すぎ、1

私が紹介します!



静岡県農林技術研究所
花き生産技術科 研究員
梅田さつき

6 注釈等

※1 参考、引用文献：農林水産省
作物統計調査 作況調査(花き)
平成30年産花き生産出荷統計

